

資料－4－⑤

平成22年度第2回

沖縄総合事務局

開発建設部

事業評価監視委員会

事業評価監視委員会審議資料

再評価事業の説明資料

○一般国道329号金武バイパス

沖縄総合事務局開発建設部

事業評価監視委員会審議資料

道路事業(再評価)
国道329号
金武バイパス

2010年11月25日

沖縄総合事務局
北部国道事務所



※金武町字金武中川付近から金武町中心部方面を望む

目 次

○事業概要	1
1. 事業の必要性	2
(1)社会経済情勢等の変化	2
(2)道路交通状況の変化	3
(3)地域の要望・活動	4
2. 事業の投資効果	5
(1)交通安全の確保	5
(2)地域交流の促進	6
(3)幹線道路としての機能向上	7
(4)費用便益分析	8
3. 事業の進捗と見込み	9
4. まとめ	10

○事業概要

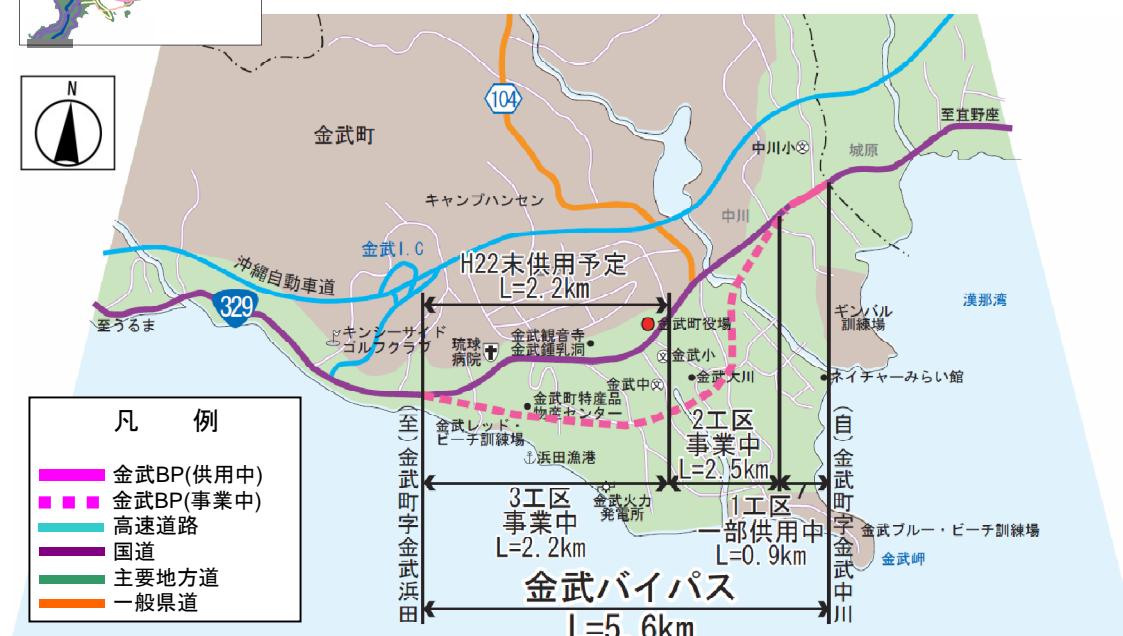
金武バイパスは平成3年度に事業化され、平成8年度に起点側約800m(現道拡幅部)が供用、今年度末に3工区(2.2km)が供用予定である。

事業目的

1. 交通安全の確保
2. 地域交流の促進
3. 幹線道路としての機能向上



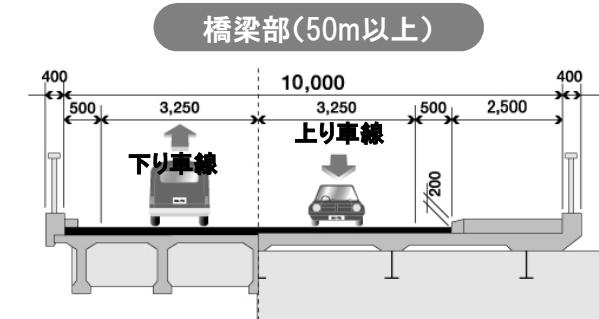
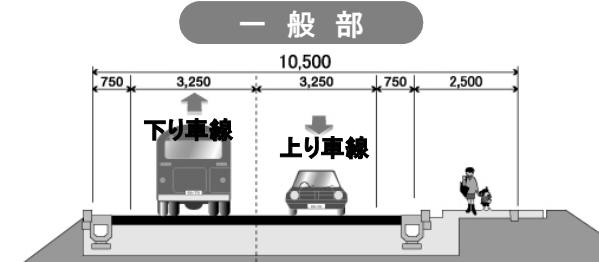
事業化年度	平成3年度
用地着手	平成6年度
工事着手	平成7年度



計画概要

区間	(自)沖縄県金武町字金武中川 (至)沖縄県金武町字金武浜田
延長	5.6km
道路規格	第3種第2級(地方部・平地部)
車線数	2車線
設計速度	60km/h
全体事業費	152億円

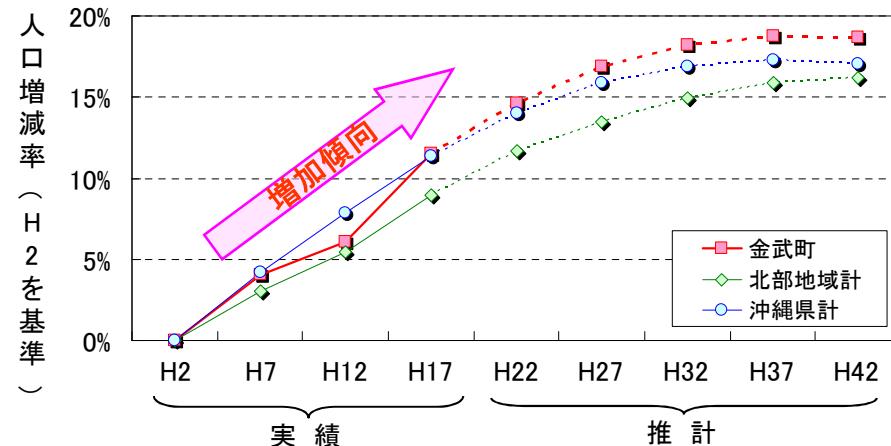
標準断面図



1. 事業の必要性

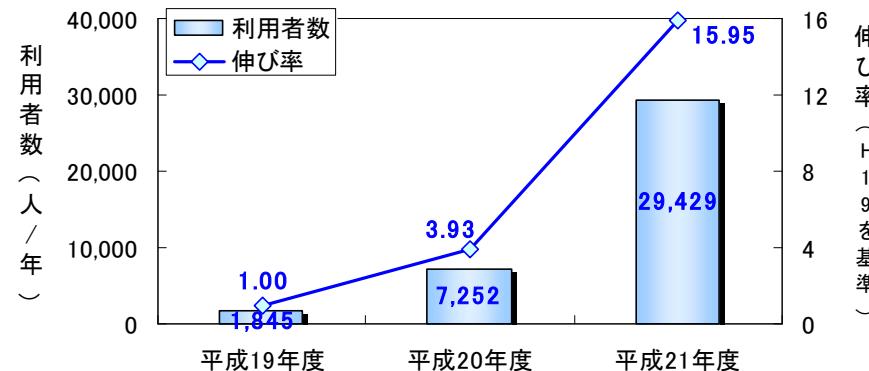
(1) 社会経済情勢等の変化

- 金武町の人口は、北部地域および沖縄県全体同様、今後も増加していくと予測されている(図1)。
- 金武町は町土の約6割が米軍基地に占有され、残り4割の土地で町内の全ての基盤や住民生活が形成されている。
- その中で、様々な観光関連施設が整備されており、自然型体験施設のネイチャーミライ館は、年間3万人と多くの来訪者に利用されている(図2、3)。
- また、沖縄電力の金武火力発電所が、平成14年から運用開始されている(図2)。



▲図1 対象地域周辺の人口推移(H2を基準)

※出典:国勢調査(H2~17)、国立社会保障・人口問題研究所(H22~42)



▲図3 ネイチャーミライ館の利用者数の推移

出典:金武町提供資料

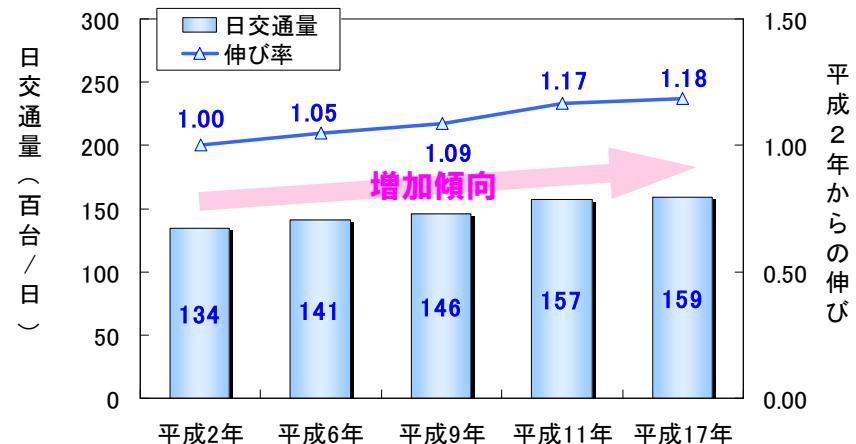


▲図2 金武町内の主要施設

1. 事業の必要性

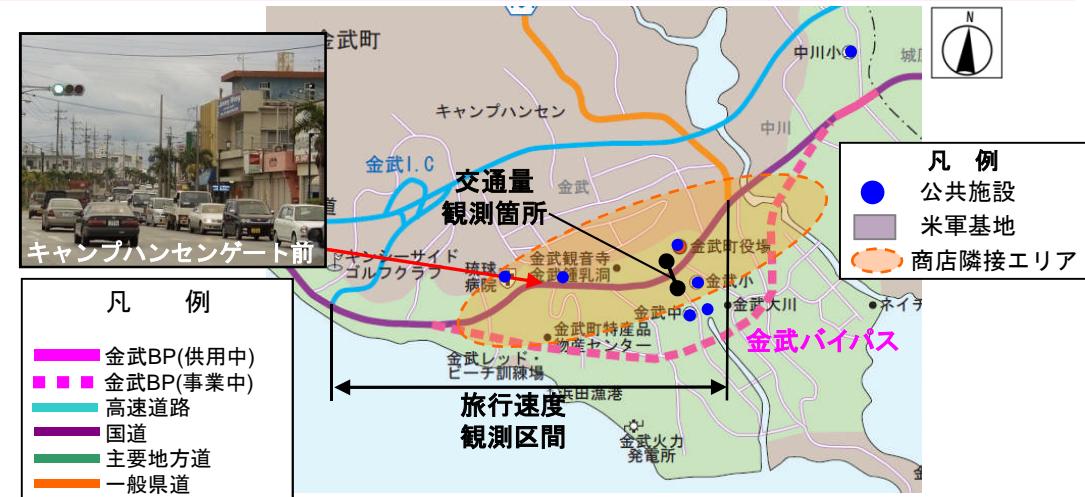
(2) 道路交通状況の変化

- 金武町中心部を通る国道329号現道区間の交通量は、年々増加傾向にある(図4)。
- 現道区間は、基地、住宅、商店、公共施設などが密集しており、交差点や車両乗入口も多く、道路線形等も悪いことから混雑しており、旅行速度は低く、かつ年々低下している(図5、6、7)。
- その結果、現道では幹線道路としての機能が低下している。

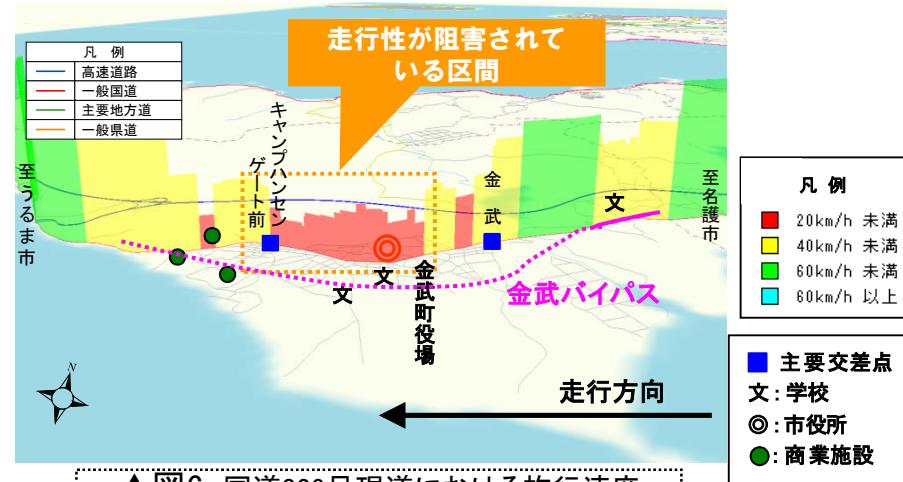


▲図4 交通量の経年推移(国道329号金武町字金武)

出典:道路交通センサス(平日)

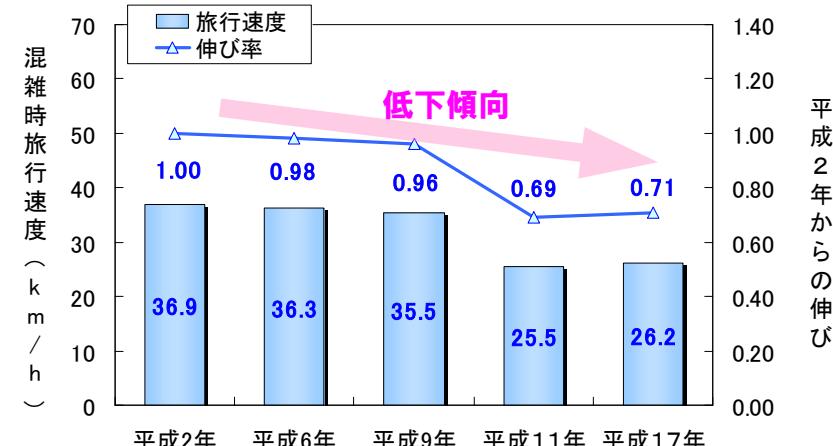


▲図5 対象地域周辺の施設密集エリア



▲図6 国道329号現道における旅行速度

出典:プローブ情報システム算出結果(H21年8月平日平均17時台南向きデータ)



▲図7 混雑時旅行速度の経年推移(国道329号金武町字金武)

出典:道路交通センサス(平日)センサス区間番号1028の混雑時旅行速度

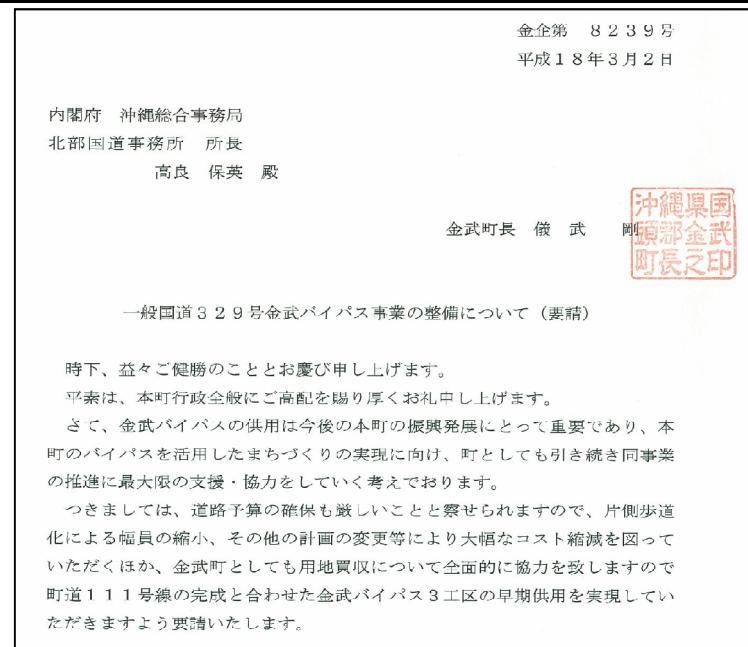
1. 事業の必要性

(3) 地域の要望・活動

- 金武バイパスの整備により、交通安全の確保、交通混雑の緩和、地域交流の促進、幹線道路としての機能向上が期待されており、金武町等から早期整備の要望が多く寄せられている(表1)。
- 平成18年度に策定された金武町の総合計画(第4次)において、金武バイパスは、4大重要プロジェクトに位置付けられている(図8)。

▼表1 要望書一覧

要望書文書名		要望者	要請先	要望書日付
1	金武バイパス建設に関する要望	金武町並里区長	北部国道事務所長	平成8年5月21日
2	国道金武バイパス建設に関する要請決議	金武町町議会	北部国道事務所長	平成8年10月24日
3	国道金武バイパスの早期開通及び同建設工事等に係る発注の地元(金武町)業者優先活用について(要請)	金武町長	北部国道事務所長	平成16年11月1日
4	国道金武バイパスの早期開通について(要請)	金武町長	北部国道事務所長	平成17年12月20日
5	一般国道329号金武バイパス事業の整備について(要請)	金武町長	北部国道事務所長	平成18年3月2日
6	中期的な計画の作成にあたっての意見について	金武町長	国土交通省道路局長	平成19年4月26日



▲図8 要望書の一例(平成18年3月)



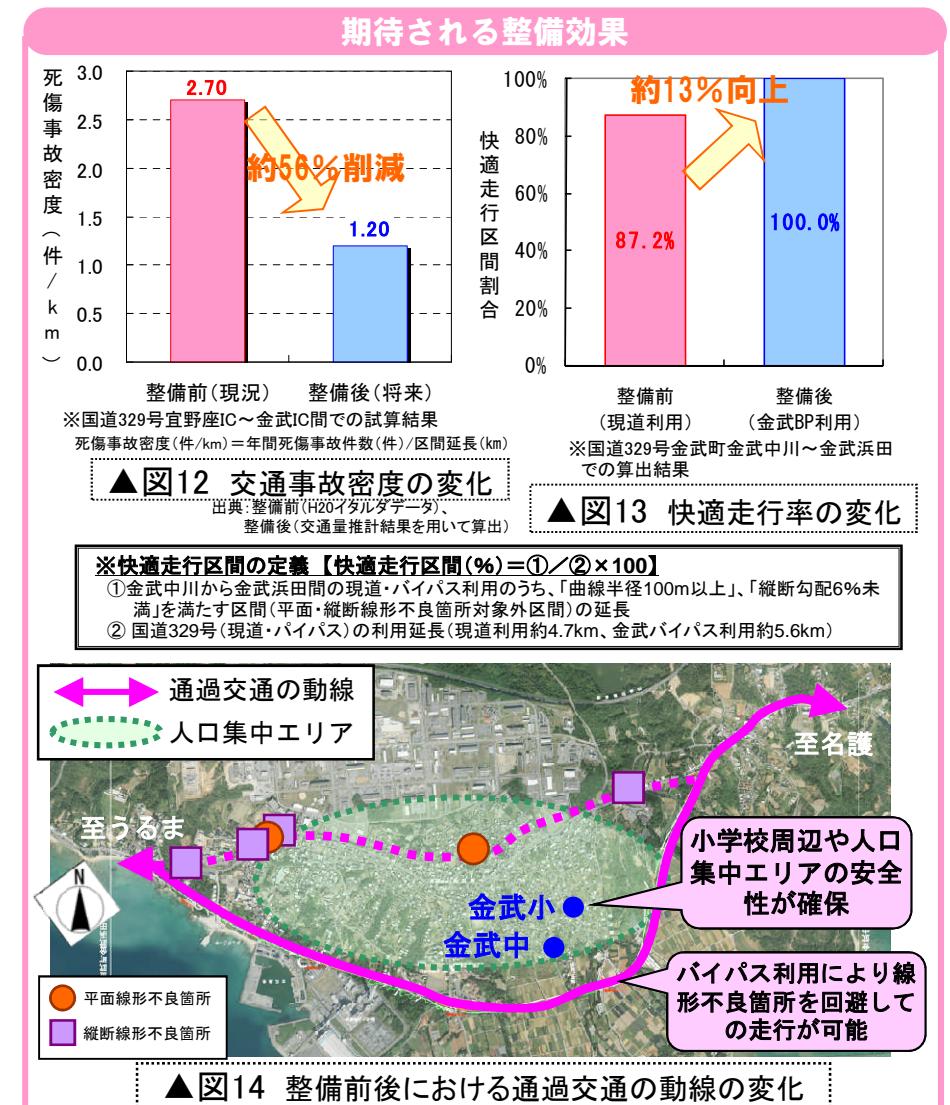
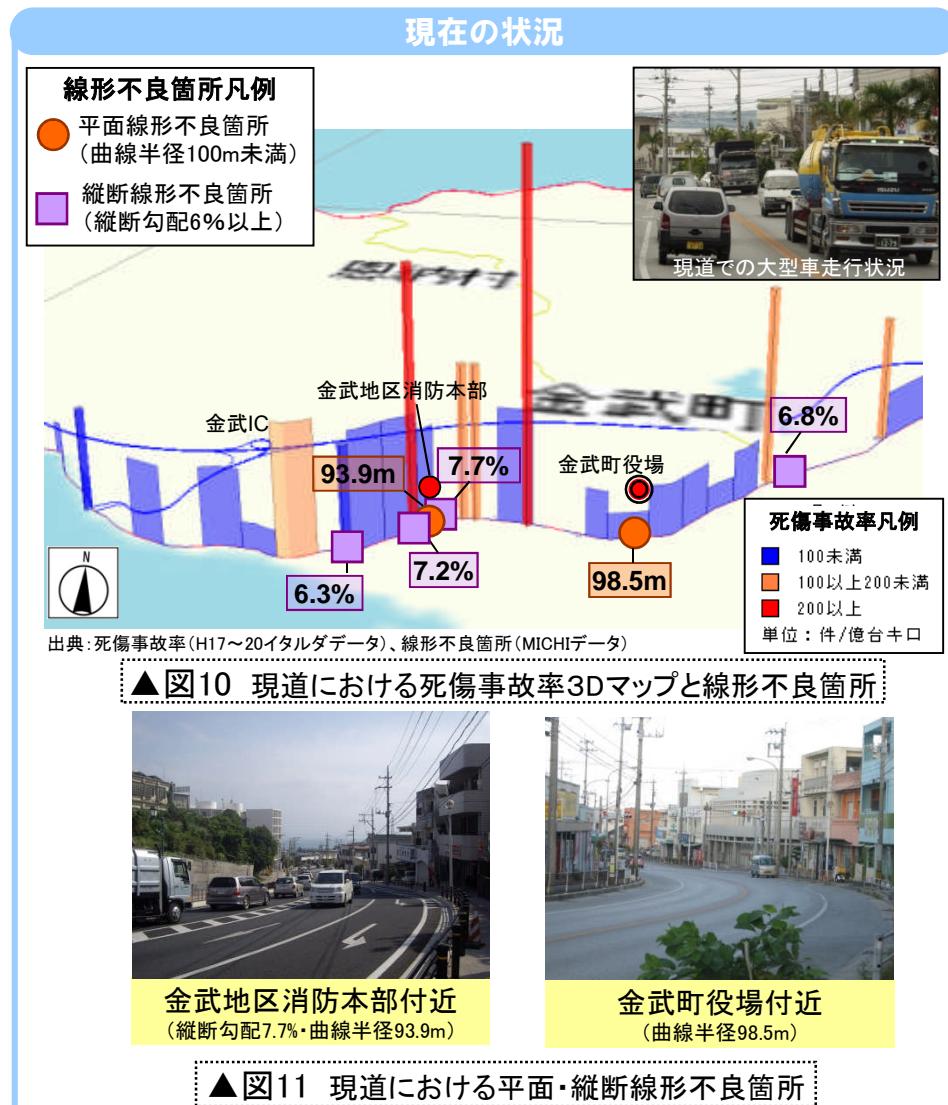
▲図9 金武町の4大重要プロジェクト

出典:第4次金武町総合計画 概要版より抜粋

2. 事業の投資効果

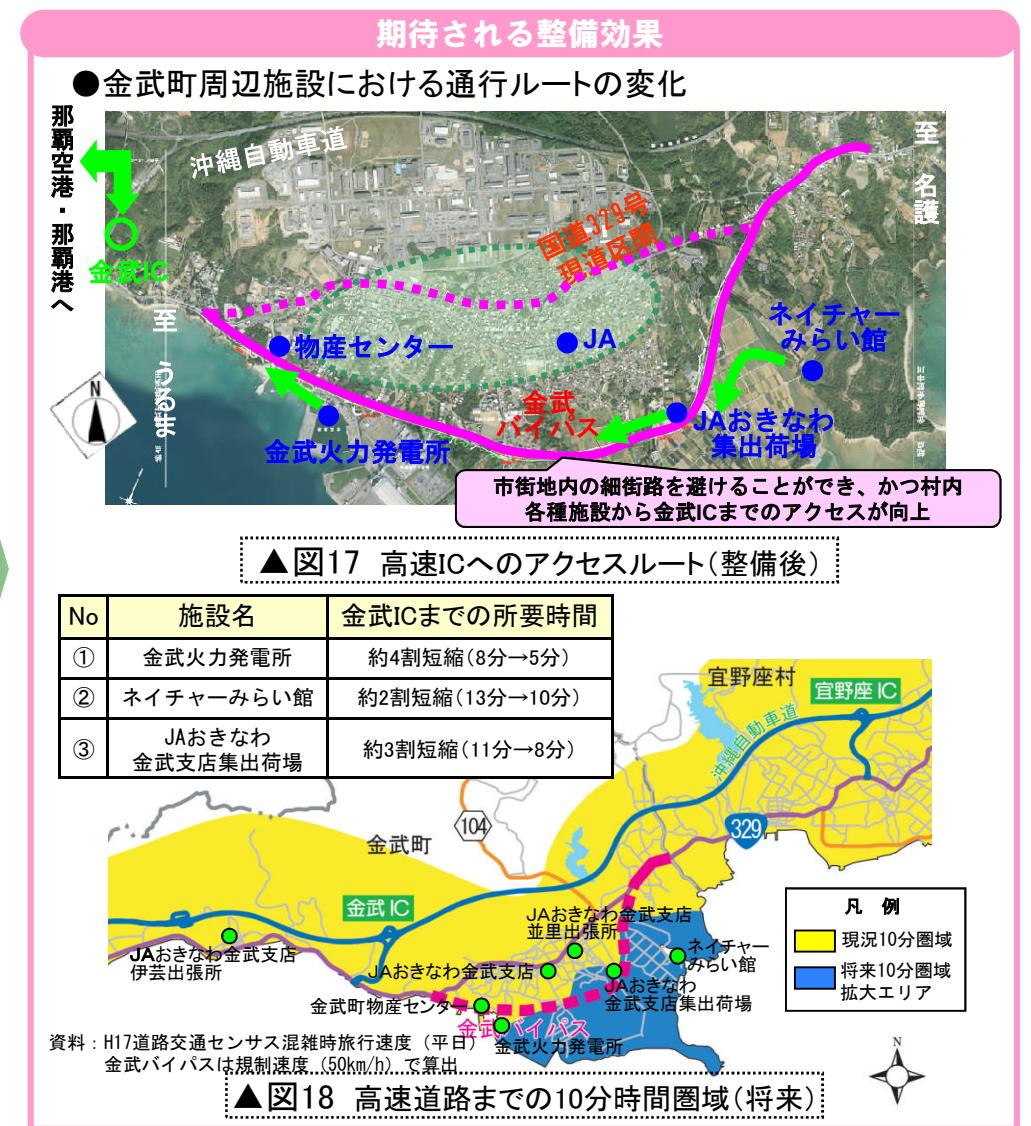
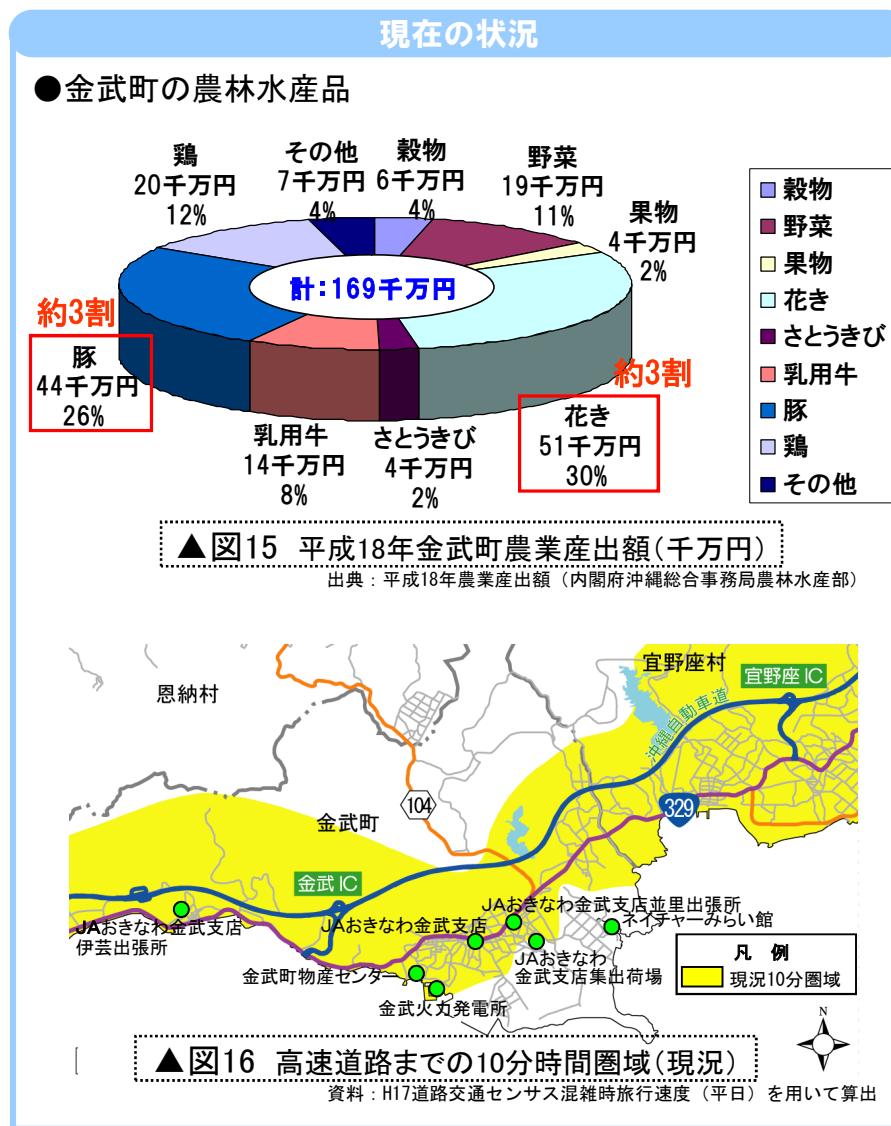
(1) 交通安全の確保

- 金武バイパスの整備により、通過交通がバイパス区間に転換することで現道区間の交通量が減少し、当該区間の事故密度が約56%減少する等、沿道住民の交通安全性が向上する(図10、11、12、14)。
- また、現道区間の急勾配や急カーブを迂回することが可能となり、快適に走行できる区間の割合が約13%向上する(図10、11、13)。



2. 事業の投資効果 (2) 地域交流の促進

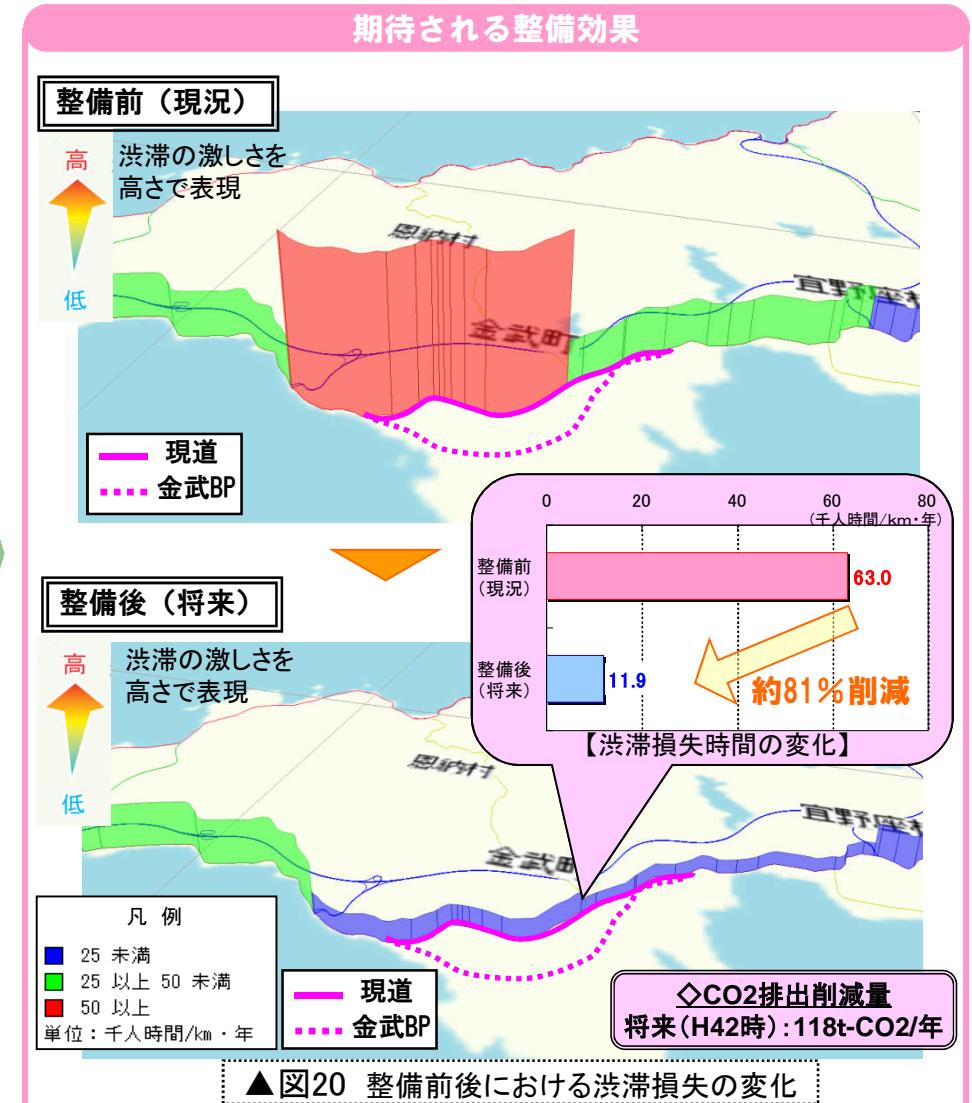
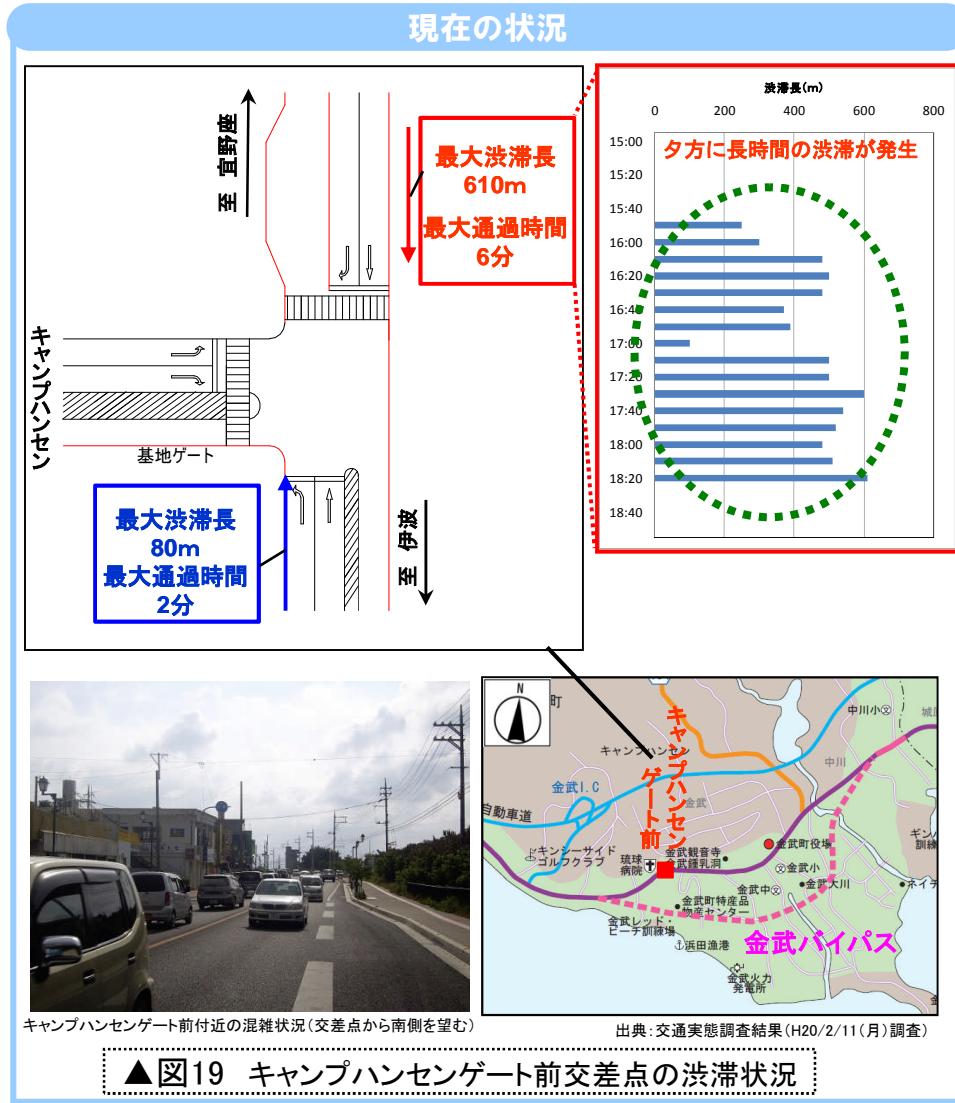
■金武バイパスの整備により、JAおきなわ金武支店集出荷場から金武ICの所要時間が約3分短縮するなど、高速道路までのアクセス性が向上し、農林水産業の活性化やネイチャーみらい館などの観光施設の地域交流の促進が期待される(図15~18)。



2. 事業の投資効果

(3) 幹線道路としての機能向上

- 金武バイパスの整備により、国道329号宜野座IC～金武IC間の年間渋滞損失時間は、年間約81%削減と大幅に削減され(63千人時間/km・年→12千人時間/km・年)、渋滞緩和に大きく貢献する(図19、20)。
- また、渋滞緩和に伴い、CO2排出量も削減され(118t/年)、環境改善も図られることが期待される。



2. 事業の投資効果 (4) 費用便益分析

費用便益分析

項目	残事業	事業全体
費用(C) ^{※1)}	62億円 ^{※2)}	186億円 ^{※2)}
事業費(億円)	44億円 (55億円)	168億円 (152億円)
維持管理費(億円)	18億円	18億円
便益額(B) ^{※1)}	193億円 ^{※2)}	193億円 ^{※2)}
①走行時間短縮便益(億円)	172億円	172億円
②走行経費減少便益(億円)	17億円	17億円
③交通事故減少便益(億円)	4.5億円	4.5億円
費用便益比(B/C)	3.1	1.0

その他地域社会が受ける便益等

項目	効果
円滑なモビリティの確保	◇渋滞損失時間削減量 約81%削減(63.0千人時間/km・年 → 11.9千人時間/km・年)(現道区間)
環境の改善	◇CO ₂ 排出削減量 H42時:118t-CO ₂ /年 ³⁾
交通安全の確保	◇死傷事故密度削減量 約56%削減 (2.7件/km→1.2件/km)(現道区間)
	◇快適な走行が可能な区間 ^{※4)} の向上 13%向上(87%→100%)
観光産業の支援	◇金武ICからネイチャーミらい館 までのアクセス性の向上 所要時間:約3分短縮 (約13分→約10分) ⁵⁾

費用便益比の算出条件

$$\text{費用便益比} = \frac{\text{便益【①+②+③】}}{\text{費用【事業費+維持管理費】}}$$

適用マニュアル : 「費用便益分析マニュアル」
(平成20年11月:国土交通省道路局 都市・地域整備局)

基準年次 : 平成22年度

検討年数 : 供用後50年

事業費 : 現在価値事業費=単純価値事業費×割戻率×GDPデフレータ

便益 : ①走行時間短縮便益②走行経費減少便益③交通事故減少便益
・上記金額は、道路整備前後における、

①走行時間の価値②走行経費③交通事故損失額 の差により算出
・なお、各金額は将来OD(H17センサスベースH42OD表)により

推計した交通量を用いて算出

費用及び便益額等については、平成22年度の価値に換算
(現在価値算出のための社会的割引率 : 4%)

※1)費用・効果の金額は、社会的割引率(4%)、GDPデフレータ(H19確定値)を踏まえた供用開始より50年間の総額

※2)便益・費用の合計は表示桁数の関係で一致していない

※3)交通量配分結果(H42時)をもとに、交通量・旅行速度を用いて算出。

算出は「客観的評価指標の定量的評価指標の算出手法(案); 平成22年度道路政策評価関係資料集」に準拠

※4)線形不良箇所に該当しない区間

※5)現況路線はH17センサス混雑時旅行速度、金武バイパス(全線整備後)は規制速度(50km/h)を用いて算出

3. 事業の進捗と見込み

- 現在の事業進捗率は約6割となっており、今年度末に3工区を供用予定である。
 - 今後は、当面早期の全線供用に向けて、鋭意事業進捗を図る。

年度	事業進捗
平成3年度	事業化(L=5.6km)
平成6年度	用地着手
平成7年度	工事着手
平成8年度	起点側約800m(現道拡幅区間)供用
平成22年度	3月末に3工区を供用予定
用地進捗率	約88%
事業進捗率	約64%

※平成22年度末予定



町道111号

平成22年7月撮影



平成22年11月撮影



平成22年11月撮影



③ 3号跨道橋付近

4. まとめ

1. 事業の必要性

- 国道329号は、急カーブや急勾配の線形不良箇所が多数存在し、走行時に交通事故の恐れが高い路線となっている。
⇒ **交通安全の確保**
- 国道329号では、年々の交通量の増加に伴う走行性の悪化により、高速道路までのアクセス性が悪くなり、町内に点在する観光資源への訪問や農作物の出荷の際に利便性を損なっている。
⇒ **地域交流の促進**
- 現道区間は、基地及び住宅が密集し、交差点や車両出入口が多いため、渋滞が発生しており、幹線道路機能が低下している。
⇒ **幹線道路としての機能向上**
- 金武バイパスの整備により、交通安全の確保、地域交流の促進、幹線道路としての機能向上が期待されており、地元金武町等から早期整備の要望を受けています。
⇒ **地域の要望・活動**

2. 事業の投資効果

- 交通安全の確保
⇒ 国道329号宜野座IC～金武IC間で死傷事故密度を約6割削減。
⇒ 国道329号金武中川～金武浜田間の快適走行率が87%から100%に向上。
- 地域交流の促進
⇒ 金武町に点在する各施設(JAなど)へのアクセス性向上により、地域交流が促進。
- 幹線道路としての機能向上
⇒ 国道329号宜野座IC～金武IC間で渋滞損失時間を約8割削減。
⇒ 渋滞緩和に伴い、CO₂排出量を118t/年削減。
- 費用便益比(B/C)=1.0(事業全体)、3.1(残事業)

3. 事業の進捗と見込み

- 用地進捗率:約88%、事業進捗率:約64%。
- また、今年度末に3工区の供用を予定しており、早期の全線供用に向けて、現在事業の進捗を図っている。



○対応方針(原案):「**事業継続**」